

D. 考察

[I] 歯科技工業の業務形態の把握に関する調査

1. 調査対象者の数等及び調査目的について

今回調査の対象とした歯科技工士は公益社団法人日本歯科技工士会（以下、歯科技工士会）に所属する開設者、勤務者1000名から392名（39.2%）の回答を得た。この結果は本研究より少し早く実施された2015年歯科技工実態調査（日本歯科技工士会により3年ごとに実施）で行われた3000名の調査に比べ、人数的には少ないものの、回収率では約5%（実態調査は34.2%）ほど上回っており、高い回答率ではないが、信頼性の担保はある程度できているものと考えられる（文献1）。回答者のうち男性が90%以上であること、50歳以上が60%以上を占めていることも日本の歯科技工士の就業者状況から見ても妥当である。上記の理由から本研究が今後の我が国における歯科技工所（歯科技工士）のあり方に関する、モデル（類型）を考えることを目的とし、具体的な就業の状況（就労の時間などの労務に関する項目だけでなく、実際に製作している補綴装置の種類、方法、納期など）に言及した調査内容であることから調査の意義や斬新性も担保はできているものと考えられる。

2. CAD/CAM システム利用の歯科技工の進歩が歯科技工士の就労環境に及ぼす影響について

歯科用 CAD/CAM 装置導入の一般的メリット、デメリットについて説明と考察をする。CAD/CAM 装置とは基本4つの要素から構成されている（文献2）。すなわち、1. 歯列模型（口腔内を直接も可能）を読み込みデータ化するスキャナー装置、2. 補綴装置のデザインをする CAD（Computer Aided Design）ソフトウェア、3. 設計された補綴装置を加工する加工機、

ならびに4. 加工機の動きを制御するCAM（Computer Aided Manufacture）ソフトである。この4つ装置によって、セラミック（ジルコニア）や金属（チタン合金やコバルトクロム合金）を切削加工し、精度の高い補綴物を製作することが可能になり、長年行われてきた金属の精密鋳造から、CAD/CAM 利用の補綴物への移行が急速に進んでいる。

とくにクラウン・ブリッジ・インプラント補綴の分野での装置の導入が早くから進められていたが、2006年、日本でのCAD/CAM利用によるジルコニア材料の薬事承認が取れたことが契機になり、さらに2014年にはコンジットレジンによるCAD/CAM冠が保険に導入されることによって、日本においてもCAD/CAM装置の利用が一気に進んできた。しかしながら、アメリカ合衆国では2001年からCAD/CAM利用によるジルコニア材料の使用が開始されており、アメリカでの歯科技工業態の変化は先行して進んでいると考えられる。

CAD/CAM 利用による歯科技工は就労環境にも大きな影響を及ぼしている。利点としては金属鋳造をしないので、ガスを使用せず、コンピュータ作業を中心とした工程が多く、クリーンな環境での仕事が可能となった。コンピュータ制御による設計、製作加工をするので、人の技量などの影響を受けにくい状態で、安定した補綴装置の提供ができる。トレーサビリティがしっかりと行え、医療安全上有利である。加工機が切削するので、加工はおおむね自動化され、歯科技工士の就労時間の短縮が可能である。また、供給が不安定で高価になった金の使用をしなくてすむ。金属をまったく使用しない補綴装置の提供ができ、金属アレルギー患者の対応が容易であるなど、そのメリットは大きい。欠点は何より、高価な

機械が必要で、投資額も大きくなること、装置の進化が早いため、研修、設備投資のタイミングが難しいことがあげられる。これらの影響による歯科技工士の就労状況の変化の詳細については、以下の項目に別けて考察する。

1) 歯科技工士の一日あたりの勤務時間

3年ごとに実施されている歯科技工士会による歯科技工実態調査からも明らかであるが、歯科技工士の長時間労働、低賃金が問題となっているところである。そのような環境の中、歯科技工の業界ではクラウン・ブリッジ・インプラントと有床義歯の分業化や、クラウン・ブリッジ・インプラント分野でのCAD/CAM利用の技工で、近年、技工作業の効率化が図られてきた実情がある。これらのことは本研究の主任ならびに分担者研究者、研究協力者の間で意見の一致を見るところであったが、本研究の結果では一日あたりの勤務時間は10時間以上が44.3%と歯科技工士の時間外勤務が、いまだかなり多い現状であった(図7)。これを歯科技工所の規模別で見た分析(図28)でも、10時間以上の勤務が5名以上の大型の歯科技工所が64.3%と最も高い結果となっている。一般に従業員数による歯科技工所の規模と就業時間との関係については、製作個数や業務形態によっても影響を受けることが考えられるが、従業員数だけで考察をするのは難しく、製作個数等他の要因(たとえば外交業務など)の関係など、今後更なる検証が必要と思われた。

これは海外のオピニオンリーダーの意見からも考察できるところであるが、現在50年に一度といわれている歯科技工の革新(鑄造からCAD/CAM技工へ)が進行している最中であることに関連があるように思われる。現在、大型の技工所ほどCAD/CAM技工装置の導入が試行錯誤

的に進んでいる最中で、研修等に多大な時間を費やしている可能性が示唆される。CAD/CAM技工が進んだアメリカ合衆国カリフォルニア州A歯科技工所やマサチューセッツ州E歯科技工所のオピニオンリーダーの意見を参考にすると、確かにCAD/CAM技工の導入には相当な時間と試行錯誤を繰り返し、現状でやっと時間外の勤務が大幅に減少に至ったとの意見であった。しかしながら、就労のあり方ではこの2つアメリカ合衆国での技工所では全く異なっており(A技工所は従業員数4000名と大規模で、E技工所は10名程度とは大きな差がある)、またアメリカ合衆国では歯科補綴は自費での診療であるので、単純にこれらのアメリカ合衆国の結果が日本にあてはめられるものではない。しかし、将来の日本のモデルにしている点も多々あるものと思われた。

日本の歯科技工所体系においては1人開業が78%を占め、従来から歯科技工作業はもとより、営業、経営管理、清掃などを1人で行っていることから仕事量にはおのずと限界があり、長時間労働も辞さない。また、日本の歯科技工士は、1人ですべての歯科技工作業を行ってきた経緯があり、技術力にも自信を持っていることから分業化を嫌い、CAD/CAMシステムのようなデジタル機器の導入にはいささかの抵抗があることも海外の歯科技工体系と大きなちがいである。さらに、医療保険制度によって制約された補綴物の製作をしなければならないことから、質よりも量に重点を置かなければ経営上成り立たないことも就業時間や製作実績に反映されている。

2) 歯科補綴物等の製作実績

今回の分析では歯科技工所(歯科技工士)のモデルを提案するために、歯科補綴物等の製作実績有無については、歯科

技工所を開設している者、および歯科技工所に勤務している者 281 名、すなわち歯科技工所として実際に補綴装置作製の技工を実際に担当していると思われる歯科技工士を対象に分析を進めた。また、実体的な状況をアンケートに答えやすくするよう配慮したため、また、最新の事情を得ることが重要と考え、平成 27 年 9 月 1 日～平成 27 年 9 月末日までの 1 か月間のみに限ったデータの収集を行った。そのため、図 12 の歯科補綴物等の製作実績有無（保険診療分）、図 13 歯科補綴物等の製作実績有無（自費診療分）などにおいて、製作実績無しの割合が多い結果となっているが、年を通すと製作実績無し数はもっと少なくなるものと思われる。

しかしながら、データの収集の時期を絞ったことにより、歯科補綴物等の製作の実情は見やすいものになったと考える。歯科補綴物等の製作の実績を見ると、保険診療分で、クラウン・ブリッジ系実績無しが 45.6%、有床義歯系で実績無しが 32.7%、自費診療分でも、クラウン・ブリッジ系実績無しが 69.4%、有床義歯系で実績無しが 60.9%と、多くの歯科技工士が 1 か月間に一般的と思われる歯科技工に一部関わっていない事情があると思われる、これは歯科技工の分担（分業）がなされていることを伺わせる（図 12, 13）。これを製作過程の一部担当をしている割合から見ると、歯科補綴物の担当形態（保険診療分）の分析結果、クラウン・ブリッジ系（CAD/CAM 非利用インレー等含む）では、「全ての製作工程を担当」が 38.1%、「一部の製作工程を担当」が 12.8%、「実績なし」が 47.3%である。有床義歯系では、「全ての製作工程を担当」が 44.8%、「一部の製作工程を担当」が 18.5%、「実績なし」が 34.9%である（図 15）。自費診療分ではクラウン・ブリッジ系（CAD/CAM 非利用インレー等含む）では、「全ての製作

工程を担当」が 27.0%、「一部の製作工程を担当」が 11.7%、「実績なし」が 59.4%であり、有床義歯系では、「全ての製作工程を担当」が 28.5%、「一部の製作工程を担当」が 18.1%、「実績なし」が 51.6%となっており（図 16）、上記考察の歯科技工の分担（分業）がなされていることを伺わせる詳細が明らかにできているのと考ええる。

3) CAD/CAM 利用と歯科補綴物等の製作の分担

考察 2. の項目でも述べたが、2006 年、日本での CAD/CAM 利用によるジルコニア材料の薬事承認が取れるとともに、さらに 2014 年にはコンポジットレジンによる CAD/CAM 冠が保険に導入され、日本においても CAD/CAM 装置の利用が一気に進んできている。本調査の結果からすると、保険診療分のコンポジットレジンによる CAD/CAM 冠の製作実績は 16.7%（図 12）、自費診療分のインプラント・クラウンブリッジでも CAD/CAM 利用の製作実績は 11.0%（図 13）は、アメリカ合衆国でのオピニオンリーダーの意見を考慮すると海外に比べ多数ではではないと考えられるが、着実に CAD/CAM 利用の歯科技工の実績が積み重なってきているものと推察できる。

内訳を見ると、クラウン・ブリッジ系（CAD/CAM 利用・インレー等含む）（保険診療分）の製作実績ありの者を総従業員数別（歯科技工所開設者のみ）で見ると、「1 人」が 4.5%、「2～4 人」が 10.4%、「5 人以上」が 35.7%である（図 29）。クラウン・ブリッジ系（CAD/CAM 利用・インレー等含む）（自費診療分）の製作実績ありの者を総従業員数別（歯科技工所開設者のみ）で見ると、「1 人」が 10.7%、「2～4 人」が 16.7%、「5 人以上」が 39.3%である（図 31）。これはすなわち大型の技工所ほ

ど CAD/CAM 利用の歯科技工が先行している実情が明らかになった。CAD/CAM 導入には多額のコストと研修が必要なことから、このような実情が生じているものと思われる。

しかしながら、自費診療分ではクラウン・ブリッジ系（CAD/CAM 利用・インレー等含む）「1 人」が 10.7%は存在している。これらの小規模技工所で CAD/CAM のシステムがすべてをそろえているというのは投資額からして考えにくく、このような「1 人」技工所では模型の読み込み、模型用スキャナーと CAD 装置だけを導入し、切削加工は外注し、CAD/CAM 技工を行っていることが推察される。インターネットの環境も良くなってきたことから、しっかりとした CAM センターが存在すると「1 人」での CAD/CAM 利用の技工は十分可能であり、この調査がこの実績を反映しているものと考察する。このため、今後、CAM センターの稼働の実情調査がこの CAD/CAM 利用の歯科技工ならびに歯科技工士の役割分担、さらに将来の方向性（モデル）を明らかにする上で、不可欠なものと思われた。

また、日本の歯科技工所体系は 3 人以下の小規模スタイルが圧倒的に多いことから CAD/CAM システムの導入にあたっては、スキャナーと CAD ソフトのみ設置し、加工は大規模歯科技工所やプロダクションセンターに委ね、最終仕上げは再度小規模歯科技工所で行うことが望ましいと考える。

4) 有床義歯での歯科補綴物等の製作の分担

保険診療分の有床義歯製作実績は 65.1%（図 12）、自費診療分の有床義歯製作実績 37.0%（図 13）で、一般的と思われる保険診療分有床義歯製作に関わっていない歯科技工士割合が 32.7%も存在して

いた。近年、有床義歯の分野でもバー、クラスプ等を Co-Cr 合金で作製することが多くなってきており、これにも鋳造機などに多額の設備投資が必要である。この研究結果は歯科技工士が得意分野（クラウン・ブリッジ系と有床義歯系、その他小児・矯正系）を選んで歯科技工を行っているものと推察できた。

しかしながら、有床義歯の分野で CAD/CAM 利用の製作法の開発はまだまだ進んでいるとはいえない。一部の技工所ではバー、クラスプ等のパターンの作製を CAD/CAM 装置を利用して行っており、今後の進展を見守る必要がある。また、義歯製作における CAD/CAM システムの応用にあたっては、加工法として切削加工と付加造形加工の両面で研究されていることが、特に部分床義歯においては維持装置や連結子などの併用があることから現状ではなく広く普及するに至っていない。

一方、今回の海外調査で、A 大学において CAD/CAM 利用の総義歯の製作法の開発が進んでおり、現在 2 社が FDA（アメリカ合衆国食品安全局）の認証を得ているとのことであった。この方法では最小 3 回の受診で総義歯の装着ができることとであり、本法も今後の発展が期待される場所である。

5) 歯科補綴物等の製作の分担と納品期間の関係

クラウン・ブリッジ系（CAD/CAM 非利用インレー等含む）の「1 人で製作」では、「1 日」が 0.0%、「2 日」が 5.1%、「3～6 日」が 49.6%、「1 週間」が 44.4%、である（図 23）。有床義歯も似た傾向で「3～6 日」から「1 週間」がほとんどで、複数で分担している方がやや早い傾向となっているが、CAD/CAM 冠では逆の結果となっており、本調査では仕事の分担による影響は

作製する補綴装置との関係も考える必要があるように思われる。とくに有床義歯系では2人以上の納品期間で「3~6日」が27%、「1週間」が31.9%と均衡しており、バー作製、ワックアップ重合など課程が複雑になっているなどの理由で、2人以上ですることにより納品期間が短くなっていることも考えられる。CAD/CAMシステムの普及はまだ十分ではなく、設置においても教育関係や作業工程における位置づけが不明確であり、現在のところCAD/CAM設置が作業効率に好結果を得ているとは思われない。

フリーコメントのところで、技工物の集配や事務手続きに歯科技工士がどのように関わるべきかについての意見が多数あった。最近では、集配を宅配業者に任せているところも増えているとの意見もあった。実際、カリフォルニア州のA技工所では、すべて宅配にしており、2000名の歯科技工士以外に2000名ほどの従業員を雇用しているとのことで、事務、機械のメンテナンス、集配その他技工用材料の製作販売なども行っており、歯科技工に関連する諸々の業務、ビジネスが存在するのも実情であろう。今後の課題として、歯科技工士の分担は作業の分担だけでなく、その他納品などの事情も含めて、今後詳しく調査をし、将来の歯科技工のモデルを提言していく必要があるように思われた。

6) 特定の歯科補綴物等の製作に携わる業務形態に関する意見

今回の調査で、特定の歯科補綴物等の製作に携わる業務形態が良いと思った理由についてみると「効率的に業務が行える」81.9% (図26) がもっとも多い意見であった。一方、特定の歯科補綴物等の製作に携わる業務形態が良くないと思った理由について全体でみると、「責任の所在

が不明確になる」が73.3%、(図27) が最も多い意見であった。どちらも納得意見で、ある技工所では作業ごとにチームを作り、作業をローテーションで行って、マンネリ化を防ぐような取り組みも行われている。一方、CAD/CAM利用の技工が進展していくと、CAD/CAM装置の基本4つを、すべて最新のもので取りそろえ、1人でそのメンテナンス等もこなしながら、歯科技工をすることは資金的にも、時間的にも、技術的にもほとんど不可能と思われる。そのために、今後分担の体制をどのように構築していくかが課題であることにまちがいはない。

7) 女性の就労状況等

今回調査では1000名のうち392名(39.2%)の回答を得たが、女性歯科技工士の回答は27名(6.9%)からしか得られなかった(図1)。このうち「1人」技工所を営むもの1名、そのほか26名は2人以上技工所勤務であり、独立して「1人」技工所を営んでいるはかなり少ないものと思われた。また、27名中15名(55.5%)は40歳以下で、同じ年代の男性の構成比(17.1%)に比べると遙かに高く、若い女性の社会進出が進んでいることがうかがえた。しかし、若い女性歯科技工士の就労は確実に増えていると思われるものの、産休経験「なし」が91.5%と多く、また、女性が就労しやすい配慮が「ほとんどない」が47.0%など、決して女性の就労環境が良いとは思われなかった。今回実地調査したアメリカ合衆国のオピニオンリーダーの歯科技工所では女性歯科技工士の割合が高く、女性の歯科技工士の社会進出はますます増えていくと思うが、何分、今回の調査で得られた母数が27名と少ない。全技協調査では、歯科技工士を目指す女子学生が増加傾向にあることから、今後は就業者数に反映されるものと思わ

れる。

今回の調査で 64 名 (17.5%) が歯科診療所勤務の歯科技工士であった。今回の調査では歯科技工所を中心とした調査で、院内歯科技工士の活動を詳細に分析できなかった。最近では光学印象装置と小型の CAD/CAM 装置導入している歯科医院も増加していることから、これらと歯科技工士の就労の関わりもあるものと想像できる。しかしながら、今回実地調査したアメリカ合衆国のオピニオンリーダーの意見では歯科診療所に勤務する歯科技工士はほぼいないであろうとの意見であった。法律や制度も我が国とは事情が違うので、比較は難しいが、院内歯科技工士の役割などについても、今後のモデルを考える上で重要で、今後更なる研究調査が必要であることが判った。

一方、日本の歯科医療保険制度においては、歯科医院に歯科技工士が配置され、患者サービスの向上から修理などに対する加算点数が認められ、今後も歯科技工士の存在は多くの利点を生むと考えられる。また、歯科技工士に歯科医療技術者としての自覚をもたらす観点からも、補綴物装着時の立会いは製作責任者として当然であり、患者の喜怒哀楽を観察することは仕事に対するやりがいにも通じる。このような観点からも歯科技工士の歯科医院への配置は望ましいと考えられ、近年では歯科医院からの求人率もわずかながらも増加傾向にある。

[II] アメリカ合衆国における歯科技工に関する実態に関する、オピニオンリーダーからの聞き取り調査、アンケート調査

1. 調査対象選定等について

今回調査の対象とした施設は CAD/CAM 装置の導入が比較的早く、技工委託が盛んに行われ、中規模と大規模技

工所への集約が進んでいる先進国アメリカ合衆国の中で、CAD/CAM 補綴の教育等に積極的に関わっていると思われる大学歯学部附属病院 3 校 (カリフォルニア州 2 校、マサチューセッツ州 1 校)、さらに大学と関連を持っている歯科技工所で、意見が聴取しやすい日本人の歯科技工士の配置がある 5 カ所 (カリフォルニア州 4 技工所、マサチューセッツ州 1 技工所) を選定し、オピニオンリーダーとして意見の聴取を行った。

今回調査した歯科技工所は、どの施設も CAD/CAM 装置の利用を積極的に行っているところで、少ないところでも 5 名の歯科技工士の配置のある技工所なので、意見の偏りはあるかと思われる。しかしながら、歯科技工士 5 名から 2000 名までと、多様な歯科技工所から、意見を聴取できてことは、本研究の目的である今後の我が国の技工所のあり方、すなわちモデル (類型) の提案に、参考となる意見が多く得られた。

2. アメリカ合衆国における大学歯学部の歯科技工士の就労状況ならびに環境と CAD/CAM 教育

今回訪問した大学のうちカリフォルニア州 A 校、マサチューセッツ州 C 校は光学印象装置と、CAD/CAM 装置を大量に導入して、教育体制を刷新するとともに、小規模な修復物、単冠などの補綴装置を院内で作製する方向で、診療、教育を進めている状況であった。両校とも歯科技工士の数は少なく、大きな補綴物の多くは外注でまかなう体制であった。カリフォルニア州 B 校では外注するものも多いとのことだが、特殊な補綴物 (顎補綴) を作る部門があるなどの理由もあり、歯科技工士数も多く存在した。

現在アメリカ合衆国では光学印象装置の導入が進んでおり、このような背景か

ら、1. 院内で完結する補綴物を作製する方法と、2. 光学印象のみを院内で行い、データを外の歯科技工士が営む歯科技工所に送り CAM 機で加工する方法、3. さらに従来通りにシリコン印象を行い、歯科技工士が営む歯科技工所に印象を送り、模型をスキャニングして CAD/CAM 装置で完成させる方法と 3 つの方法のどれを選ぶのかのせめぎ合いが始まっているように感じ取れた。B 技工所の CEO は個人的な見解として、ゴールドクラウン、陶材焼付冠の需要は 10 年先には 90%ほど減るだろうと予想している（文献 3）。すなわち、ジルコニアや二ケイ酸リチウムなどのセラミック材料に置き換わるだろうとしている。しかしながら、光学印象の割合がどのように関わっているかには触れておらず、歯科補綴のデジタル化の今後の予想はかなり難しいといえる。

今回日本歯科技工士会の協力を得て行ったアンケート調査では、光学印象については触れずに、歯科技工士の就労調査を行ったが、アメリカ合衆国の事情を考慮すると、光学印象装置の影響も含めた上で、歯科技工士の就労のあり方（モデル）を検討することが、今後重要になってくるものと思う。

3. アメリカ合衆国における CAD/CAM 利用の歯科技工が及ぼす歯科技工士の就労環境への影響

今回訪問調査した、いずれのアメリカ合衆国の歯科技工所においては規模の大小は問わず、歯科用 CAD/CAM 装置歯科用導入によって、労働時間の短縮ならびに技工環境が改善できてきているとの意見であった。また、いずれのオピニオンリーダーも CAD/CAM 装置も進化が早く、高価であるので、設備投資の種類、タイミングの図り方が非常に難しい点を上げていた。また、中国などアジア諸国から

の技工輸入の関係との綱引きも相変わらず、大変難しいことにも言及されることが多かった。しかしながら、B 技工所のオピニオンリーダーの意見では、毎年約 10% 程度の受注が増えているともことで、中国からの輸入は減少しているのではないかと意見もいただいた。

女性の就労についても、確かに日本と比べるとアメリカ合衆国では多いとの意見をいただいた。C 技工所ではコンピュータ好きの女性 1 名を雇って、模型のデータ読み込みなどのパソコン作業はほとんど 1 人で行っており、オーナーであるオピニオンリーダーは、この女性従業員の活躍のおかげで、残業が大きく減ったことを述べておられた。この C 技工所では CAM 機は持たずに営業をしており、CAM センターがしっかりしていれば、比較的小規模でも、やり方次第ではうまくいくとの意見もいただいた。アメリカ合衆国でも我が国でも 1 人歯科技工士の技工所が多いという事実には変わりはない。そこで、CAD 機のリースや購入の支援体制の構築（具体的には中小企業庁行っている「ものづくり補助金」の活用、CAM センターの充実、データのオープン化の方向へ導く施策が進めば、デジタル技術によって、歯科技工士の就労環境は大きく変わっていくもの期待できる。

E. 結論

平成 27 年度「歯科技工業の業務形態の実態把握に関する研究」では CAD/CAM 利用による補綴物の普及が、我が国では今のところ大幅な残業の短縮につながったとの結果は得られなかったが、歯科技工業の業務形態とくに歯科技工士の就労にかなりの影響を及ぼしている現状を明らかにすることができた。また、CAD/CAM 利用による補綴物以外にも多様な分業、分担が進んでいることが推察された。これをもとに、更

なる調査・研究を加え、今後の歯科技工所（歯科技工士）のあり方（モデル）を提言できるものとする。

今回は限られた時間の中で分析を行ったが、次年度も引き続き、歯科技工所の規模と労働環境との関係については更に分析を行っていく。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 参考文献

1. 公益社団法人日本歯科技工士会編. 2015年歯科技工実態調査
2. 末瀬一彦・宮崎隆編. 最新CAD/CAM歯冠修復治療. 2014年補綴臨床別冊.
3. Glidewell J: Historical the digital era is here to say. State of the industry 2015, May 2015 (LMT Report).

II. 研究成果の刊行に関する一覧表

なし

III. 研究成果の刊行物・別刷

なし

資料1 アンケート調査用紙

平成27年度厚生労働科学研究費－研究事業－

歯科技工業の業務形態の実態把握に関する調査

アンケート調査票（日本歯科技工士会会員個人対象）

Q1 あなたが就業している勤務先の所在都道府県（○印は1つ）

1. 北海道	2. 青森県	3. 岩手県	4. 秋田県	5. 宮城県	6. 山形県
7. 福島県	8. 茨城県	9. 栃木県	10. 群馬県	11. 千葉県	12. 埼玉県
13. 東京都	14. 神奈川県	15. 山梨県	16. 長野県	17. 新潟県	18. 静岡県
19. 愛知県	20. 三重県	21. 岐阜県	22. 富山県	23. 石川県	24. 福井県
25. 滋賀県	26. 和歌山県	27. 奈良県	28. 京都府	29. 大阪府	30. 兵庫県
31. 岡山県	32. 鳥取県	33. 広島県	34. 島根県	35. 山口県	36. 徳島県
37. 香川県	38. 愛媛県	39. 高知県	40. 福岡県	41. 佐賀県	42. 長崎県
43. 大分県	44. 熊本県	45. 宮崎県	46. 鹿児島県	47. 沖縄県	

Q2 性別（○印は1つ）

1. 男性	2. 女性
-------	-------

Q3 年齢（○印は1つ）【平成27年10月1日時点】

1. 20歳代	2. 30歳代	3. 40歳代	4. 50歳代
5. 60歳代	6. 70歳代	7. 80歳以上	

Q4 歯科技工士として就業した総年数（○印は1つ）【平成27年10月1日時点】

1. 5年未満	2. 5年以上10年未満	3. 10年以上15年未満
4. 15年以上20年未満	5. 20年以上30年未満	6. 30年以上40年未満
7. 40年以上50年未満	8. 50年以上	

Q5 あなたは現在、歯科技工士として業務を行っていますか（○印は1つ）

1. 行っている
2. 行っていない → これで質問は終了です。 同封の返信用封筒に入れてポストへ投函して下さい。

Q6 現在の勤務先の状況についてご回答ください。

Q6-1 勤務先の種別（○印は1つ）

1. 歯科技工所を開設（管理者）	2. 歯科技工所に勤務
3. 歯科診療所に勤務（企業内の診療所も含む）	4. 病院（国公立・私立）
5. 歯科メーカー・歯科材料メーカー等	6. 研究・研修機関（研究所）
7. 行政関係機関	8. 歯科技工士養成機関
9. その他（ ）	

Q6-2 現在の勤務先での就業年数（○印は1つ）

1. 1年未満	2. 1年以上3年未満	3. 3年以上5年未満
4. 5年以上10年未満	5. 10年以上20年未満	6. 20年以上30年未満
7. 30年以上		

Q6-3 現在の勤務先での一日あたりの勤務時間（○印は1つ）

【平成27年9月1日～平成27年9月末日までの1か月間の実績を元に】

1. 4時間未満	2. 4時間以上8時間未満
3. 8時間以上10時間未満	4. 10時間以上
5. その他（	）

Q6-4 過去から現在まで産休、育休の経験（○印は1つ）

1. あり	2. なし	3. その他（	）
-------	-------	---------	---

Q6-5 現在の勤務先で、女性の就労がしやすい配慮がなされていると思いますか（○印は1つ）

【男女は問わず回答ください】

1. 大変あり → 具体例（	）
2. 少しはあり → 具体例（	）
3. ほとんどない	
4. その他（	）

【Q6-1で「1. 歯科技工所の開設（管理者）」と回答した方のみお答えください】

Q6-6 勤務先の従業員数（数字を記入、平成27年10月1日時点）

※職員がいない場合は「0人」とご記入下さい

総従業員数	総歯科技工士数		男性歯科技工士数		女性歯科技工士数	
	常勤職員	非常勤職員	常勤職員	非常勤職員	常勤職員	非常勤職員
人	人	人	人	人	人	人

※「常勤職員」とは正規雇用をいい、「非常勤職員」とは非正規雇用や臨時雇用をいいます。

Q6-7 現在の勤務先の業務形態について

【Q6-7-1～Q6-7-5までは、Q6-1で「1. 歯科技工所を開設（管理者）」または「2. 歯科技工所に勤務」と回答した方のみお答えください】

Q6-7-1 歯科補綴物等の作成個数（工程の一部に関わったものを含む）

平成27年9月1日～平成27年9月末日までの1か月間の実績について、上段にある選択肢の数字をそれぞれの項目ごとに保険診療分、自費診療分についてご記入ください。

（○印は各項目、保険診療・自費診療それぞれ1つずつ）

ご自身が実際の歯科技工に関わった件数です。技工所全体の数ではありません。

		保険診療分	自費診療分
クラウン ブリッジ系	CAD/CAM 利用 インレー等含む	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上
	CAD/CAM 非利用 インレー等含む	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上
CAD/CAM 冠（上記には含めない） （コンポジットブロック）		1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上
有床義歯系		1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上
インプラント クラウン ブリッジ	CAD/CAM 利用	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上
	CAD/CAM 非利用	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上
小児保険装置		1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上
歯科矯正用装置		1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上
その他（ ）		1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上	1. 製作実績なし 2. 1～9 個 3. 10～49 個 4. 50～99 個 5. 100～299 個 6. 300 個以上

注：歯科矯正用装置及びインプラントについては特定の疾患を有する患者のみに適応した場合に保険診療の対象になることがあります。

Q6-7-2 歯科補綴物等全体に占める自費の歯科補綴物等の割合（○印は1つ）

平成26年10月～平成27年9月末までの1年間の実績

ご自身が実際の歯科技工に関わった割合です。歯科技工所全体の数ではありません。

1. なし	2. 1～2割	3. 3～5割	4. 6～9割	5. 自費のみ
-------	---------	---------	---------	---------

Q6-7-3 以下の歯科補綴物の担当形態

平成26年10月～平成27年9月末日までの1年間の実績について、それぞれの項目ごとに保険診療分、自費診療分についてお答えください（○印は各項目、保険診療・自費診療それぞれ1つずつ）

ご自身が実際の歯科技工に関わった件数です。技工所全体の数ではありません。

		保険診療分			自費診療分		
		全ての製作工程を担当	一部の製作工程を担当	実績なし	全ての製作工程を担当	一部の製作工程を担当	実績なし
クラウンブリッジ系	CAD/CAM 利用 インレー等含む	1	2	3	1	2	3
	CAD/CAM 非利用 インレー等含む	1	2	3	1	2	3
CAD/CAM 冠（上記には含めない） （コンポジットブロック）		1	2	3	1	2	3
有床義歯系		1	2	3	1	2	3
インプラント クラウン ブリッジ	CAD/CAM 利用	1	2	3	1	2	3
	CAD/CAM 非利用	1	2	3	1	2	3
小児保険装置		1	2	3	1	2	3
歯科矯正用装置		1	2	3	1	2	3
その他（ ）		1	2	3	1	2	3

「一部の製作工程を担当」というのは、模型製作、フレーム製作、スキャニング、CAD 設計、切削加工などを指します。

【Q6-7-3の各項目で、「一部の製作工程を担当」と回答した方のみ理由をお答えください】

Q6-7-3-1 「一部の製作工程を担当」している場合、委託元の分類（当てはまるものすべてに○印）

1. 勤務している歯科技工所内から	2. 他の歯科技工所から
3. その他（ ）	

他の歯科技工所から依頼を受けて、「一部の製作工程を担当」することを再委託といいます。

【Q6-7-3の各項目で、「一部の製作工程を担当」と回答した方のみ理由をお答えください】

Q6-7-3-2 「一部の製作工程を担当」している理由（各項目当てはまるものすべてに○印）

		「一部の製作工程を担当」している特段の理由
クラウン ブリッジ系	CAD/CAM 利用 インレー等含む	1. 技術がない 2. 装置がない 3. 人材不足 4. その他（ ）
	CAD/CAM 非利用 インレー等含む	1. 技術がない 2. 装置がない 3. 人材不足 4. その他（ ）
CAD/CAM 冠（上記には含めない） （コンポジットブロック）		1. 技術がない 2. 装置がない 3. 人材不足 4. その他（ ）
有床義歯系		1. 技術がない 2. 装置がない 3. 人材不足 4. その他（ ）
インプラント クラウン ブリッジ	CAD/CAM 利用	1. 技術がない 2. 装置がない 3. 人材不足 4. その他（ ）
	CAD/CAM 非利用	1. 技術がない 2. 装置がない 3. 人材不足 4. その他（ ）
小児保隙装置		1. 技術がない 2. 装置がない 3. 人材不足 4. その他（ ）
歯科矯正用装置		1. 技術がない 2. 装置がない 3. 人材不足 4. その他（ ）
その他（ ）		1. 技術がない 2. 装置がない 3. 人材不足 4. その他（ ）

Q6-7-4 以下の歯科補綴物等の受注から納品までの期間（試適は日数に含みません）

平成27年9月～平成27年9月末日までの1か月の実績で、平均的ケースをそれぞれの項目ごとに保険診療分、自費診療分についてお答えください

（○印は各項目、保険診療・自費診療それぞれ1つずつ）

		保険診療分	自費診療分
クラウン ブリッジ系	CAD/CAM 利用 インレー等含む	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上
	CAD/CAM 非利用 インレー等含む	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上
CAD/CAM 冠（上記には含めない） （コンポジットブロック）		1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上
有床義歯系		1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上
インプラント クラウン ブリッジ	CAD/CAM 利用	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上
	CAD/CAM 非利用	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上
小児保隙装置		1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上
歯科矯正用装置		1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上
その他（ ）		1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上	1. 実績なし 2. 1日 3. 2日 4. 3～6日 5. 1週間 6. 2週間以上

Q6-7-5 以下の歯科補綴物等の製作課程

平成27年9月～平成27年9月末日までの1か月の実績で、最も割合として多いケースについて、それぞれの項目ごとに保険診療分、自費診療分についてお答えください

(○印は各項目、保険診療・自費診療それぞれ1つずつ)

		保険診療分	自費診療分
クラウン ブリッジ系	CAD/CAM 利用 インレー等含む	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし
	CAD/CAM 非利用 インレー等含む	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし
CAD/CAM 冠（上記には含めない） （コンポジットブロック）		1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし
有床義歯系		1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし
インプラント クラウン ブリッジ	CAD/CAM 利用	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし
	CAD/CAM 非利用	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし
小児保険装置		1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし
歯科矯正用装置		1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし
その他（ ）		1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし	1. 1人で製作 2. 複数人で分担して製作 3. 実績なし

Q7 1人の歯科技工士が全ての歯科技工の製作過程に関わるのではなく、特定の歯科補綴物等の製作に携わる業務形態をどのように思いますか（○印は1つ）

（※例えば、金属床やCAD/CAM 技工をだけを専門として歯科補綴物を作製し、他の歯科補綴物等の製作には従事しない、「模型製作」「蠟型採得」「鋳造・研磨」「CAD 設計」など1つの工程のみに関わっているなど）

1. 非常に良いと思う	}	Q7-1へ
2. 良いと思う		
3. どちらともいえない	→	Q8へ
4. あまり良くないと思う	}	Q7-2へ
5. 全く良くないと思う		

【Q7で「1. 非常に良いと思う」「2. 良いと思う」と回答した方にお聞きします】

Q7-1 良いと思った理由をご記入下さい（当てはまるものすべてに○印）

1. 意欲的に取り組める	2. 効率的に業務が行える
3. 効率的な技術の習得が期待できる	4. 品質の安定につながる
5. 収入が増える	6. 就業時間が守れる
6. その他（	）

【Q7で「4. あまり良くないと思う」「5. 全く良くないと思う」と回答した方にお聞きします】

Q7-2 良くないと思った理由をご記入下さい（当てはまるものすべてに○印）

1. 責任の所在が不明確になる	2. 1人で行った方が効率的
3. 転職や開業がしにくくなる	4. マンネリ化する
5. 収入が減る	6. その他（

Q8 歯科技工士の就労の仕方について、その他ご意見がありましたらご記入下さい
本項目の記載は必須ではありません。

ご協力ありがとうございました。

最後に書き忘れがないかご確認いただき、同封の返信用封筒に入れてポストへ投函して下さい。

資料2 アンケート集計表

Q1 勤務先の所在都道府県

		サンプル数	北海道	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県
全体		392	30	6	7	8	4	4	5	5	3	4
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	11	2	2	2	0	1	2	1	3	2
	2人以上	163	15	2	2	3	1	1	2	2	0	2
年齢	40歳未満	67	3	0	1	4	0	1	0	1	0	1
	40歳代	62	8	1	2	1	0	1	1	0	1	0
	50歳代	123	9	4	2	2	1	1	1	2	2	1
	60歳代	91	6	0	0	1	2	1	2	1	0	2
	70歳以上	47	4	1	1	0	1	0	1	1	0	0
全体		392	7.7%	1.5%	1.8%	2.0%	1.0%	1.0%	1.3%	1.3%	0.8%	1.0%
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	9.8%	1.8%	1.8%	1.8%	0.0%	0.9%	1.8%	0.9%	2.7%	1.8%
	2人以上	163	9.2%	1.2%	1.2%	1.8%	0.6%	0.6%	1.2%	1.2%	0.0%	1.2%
年齢	40歳未満	67	4.5%	0.0%	1.5%	6.0%	0.0%	1.5%	0.0%	1.5%	0.0%	1.5%
	40歳代	62	12.9%	1.6%	3.2%	1.6%	0.0%	1.6%	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%
	50歳代	123	7.3%	3.3%	1.6%	1.6%	0.8%	0.8%	0.8%	1.6%	1.6%	0.8%
	60歳代	91	6.6%	0.0%	0.0%	1.1%	2.2%	1.1%	2.2%	1.1%	0.0%	2.2%
	70歳以上	47	8.5%	2.1%	2.1%	0.0%	2.1%	0.0%	2.1%	2.1%	0.0%	0.0%

		サンプル数	千葉県	埼玉県	東京都	神奈川県	山梨県	長野県	新潟県	静岡県	愛知県	三重県
全体		392	11	8	22	14	5	6	9	10	31	9
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	6	1	6	5	1	2	3	4	12	3
	2人以上	163	3	6	8	8	2	2	4	6	14	3
年齢	40歳未満	67	1	2	3	0	1	1	2	2	3	1
	40歳代	62	1	3	3	3	0	1	3	0	3	1
	50歳代	123	3	1	6	3	1	3	3	5	13	4
	60歳代	91	4	1	5	3	3	1	1	1	7	2
	70歳以上	47	2	1	5	5	0	0	0	2	5	1
全体		392	2.8%	2.0%	5.6%	3.6%	1.3%	1.5%	2.3%	2.6%	7.9%	2.3%
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	5.4%	0.9%	5.4%	4.5%	0.9%	1.8%	2.7%	3.6%	10.7%	2.7%
	2人以上	163	1.8%	3.7%	4.9%	4.9%	1.2%	1.2%	2.5%	3.7%	8.6%	1.8%
年齢	40歳未満	67	1.5%	3.0%	4.5%	0.0%	1.5%	1.5%	3.0%	3.0%	4.5%	1.5%
	40歳代	62	1.6%	4.8%	4.8%	4.8%	0.0%	1.6%	4.8%	0.0%	4.8%	1.6%
	50歳代	123	2.4%	0.8%	4.9%	2.4%	0.8%	2.4%	2.4%	4.1%	10.6%	3.3%
	60歳代	91	4.4%	1.1%	5.5%	3.3%	3.3%	1.1%	1.1%	1.1%	7.7%	2.2%
	70歳以上	47	4.3%	2.1%	10.6%	10.6%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	10.6%	2.1%

※総従業員数「2人以上」のサンプル数（回答者数）は、歯科技工所に勤務している者を含めた数値である。

以下の集計結果表も同様。

Q1 勤務先の所在都道府県(続き)

		サンプル数	岐阜県	富山県	石川県	福井県	滋賀県	和歌山県	奈良県	京都府	大阪府	兵庫県
全体		392	6	8	0	11	4	7	2	9	40	13
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	3	1	0	2	1	2	0	0	8	3
	2人以上	163	0	7	0	6	3	4	0	1	20	5
年齢	40歳未満	67	0	1	0	2	0	1	1	3	11	1
	40歳代	62	0	2	0	0	0	2	1	2	9	1
	50歳代	123	3	3	0	3	2	3	0	2	9	6
	60歳代	91	2	1	0	4	2	1	0	1	8	5
	70歳以上	47	0	1	0	2	0	0	0	1	3	0
全体		392	1.5%	2.0%	0.0%	2.8%	1.0%	1.8%	0.5%	2.3%	10.2%	3.3%
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	2.7%	0.9%	0.0%	1.8%	0.9%	1.8%	0.0%	0.0%	7.1%	2.7%
	2人以上	163	0.0%	4.3%	0.0%	3.7%	1.8%	2.5%	0.0%	0.6%	12.3%	3.1%
年齢	40歳未満	67	0.0%	1.5%	0.0%	3.0%	0.0%	1.5%	1.5%	4.5%	16.4%	1.5%
	40歳代	62	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	3.2%	1.6%	3.2%	14.5%	1.6%
	50歳代	123	2.4%	2.4%	0.0%	2.4%	1.6%	2.4%	0.0%	1.6%	7.3%	4.9%
	60歳代	91	2.2%	1.1%	0.0%	4.4%	2.2%	1.1%	0.0%	1.1%	8.8%	5.5%
	70歳以上	47	0.0%	2.1%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	6.4%	0.0%

		サンプル数	岡山県	鳥取県	広島県	島根県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
全体		392	4	1	12	2	5	4	5	9	1	17
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	3	0	3	0	1	1	2	2	1	4
	2人以上	163	1	0	3	0	1	2	1	3	0	8
年齢	40歳未満	67	1	0	2	0	0	1	2	3	0	4
	40歳代	62	0	0	4	0	0	1	0	1	0	1
	50歳代	123	1	1	2	0	4	0	1	2	0	6
	60歳代	91	2	0	3	0	1	2	1	2	1	5
	70歳以上	47	0	0	1	2	0	0	1	1	0	1
全体		392	1.0%	0.3%	3.1%	0.5%	1.3%	1.0%	1.3%	2.3%	0.3%	4.3%
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	2.7%	0.0%	2.7%	0.0%	0.9%	0.9%	1.8%	1.8%	0.9%	3.6%
	2人以上	163	0.6%	0.0%	1.8%	0.0%	0.6%	1.2%	0.6%	1.8%	0.0%	4.9%
年齢	40歳未満	67	1.5%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	1.5%	3.0%	4.5%	0.0%	6.0%
	40歳代	62	0.0%	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%	1.6%
	50歳代	123	0.8%	0.8%	1.6%	0.0%	3.3%	0.0%	0.8%	1.6%	0.0%	4.9%
	60歳代	91	2.2%	0.0%	3.3%	0.0%	1.1%	2.2%	1.1%	2.2%	1.1%	5.5%
	70歳以上	47	0.0%	0.0%	2.1%	4.3%	0.0%	0.0%	2.1%	2.1%	0.0%	2.1%

Q1 勤務先の所在都道府県(続き)

		サンプル数	佐賀県	長崎県	大分県	熊本県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	無回答
全体		392	1	0	7	3	8	6	0	6
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	1	0	0	0	2	1	0	2
	2人以上	163	0	0	4	1	1	4	0	2
年齢	40歳未満	67	0	0	1	0	2	2	0	2
	40歳代	62	0	0	2	3	0	0	0	0
	50歳代	123	0	0	2	0	3	2	0	1
	60歳代	91	0	0	1	0	3	2	0	1
	70歳以上	47	1	0	1	0	0	0	0	2
全体		392	0.3%	0.0%	1.8%	0.8%	2.0%	1.5%	0.0%	1.5%
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.9%	0.0%	1.8%
	2人以上	163	0.0%	0.0%	2.5%	0.6%	0.6%	2.5%	0.0%	1.2%
年齢	40歳未満	67	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	3.0%	3.0%	0.0%	3.0%
	40歳代	62	0.0%	0.0%	3.2%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	123	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	2.4%	1.6%	0.0%	0.8%
	60歳代	91	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	3.3%	2.2%	0.0%	1.1%
	70歳以上	47	2.1%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%

Q2 性別

		サンプル数	男性	女性	無回答
全体		392	364	27	1
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	111	1	0
	2人以上	163	144	18	1
年齢	40歳未満	67	52	15	0
	40歳代	62	58	4	0
	50歳代	123	118	5	0
	60歳代	91	89	1	1
	70歳以上	47	45	2	0
全体		392	92.9%	6.9%	0.3%
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	99.1%	0.9%	0.0%
	2人以上	163	88.3%	11.0%	0.6%
年齢	40歳未満	67	77.6%	22.4%	0.0%
	40歳代	62	93.5%	6.5%	0.0%
	50歳代	123	95.9%	4.1%	0.0%
	60歳代	91	97.8%	1.1%	1.1%
	70歳以上	47	95.7%	4.3%	0.0%

Q3 年齢

		サンプル数	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
全体		392	18	49	62	124	91	43	4	1
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	0	4	14	44	35	14	1	0
	2人以上	163	11	31	27	52	33	8	1	0
年齢	40歳未満	67	18	49	0	0	0	0	0	0
	40歳代	62	0	0	62	0	0	0	0	0
	50歳代	123	0	0	0	123	0	0	0	0
	60歳代	91	0	0	0	0	91	0	0	0
	70歳以上	47	0	0	0	0	0	43	4	0
全体		392	4.6%	12.5%	15.8%	31.6%	23.2%	11.0%	1.0%	0.3%
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	0.0%	3.6%	12.5%	39.3%	31.3%	12.5%	0.9%	0.0%
	2人以上	163	6.7%	19.0%	16.6%	31.9%	20.2%	4.9%	0.6%	0.0%
年齢	40歳未満	67	26.9%	73.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40歳代	62	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	123	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	60歳代	91	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	70歳以上	47	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	91.5%	8.5%	0.0%

Q4 歯科技工士として就業した総年数

		サンプル数	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上 40年未満	40年以上 50年未満	50年以上	無回答
全体		392	21	10	28	22	62	146	73	29	1
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	0	0	2	4	14	59	23	10	0
	2人以上	163	14	5	17	12	25	58	27	4	1
年齢	40歳未満	67	20	8	23	15	0	0	0	0	1
	40歳代	62	1	1	5	6	49	0	0	0	0
	50歳代	123	0	1	0	0	12	109	1	0	0
	60歳代	91	0	0	0	0	0	35	53	3	0
	70歳以上	47	0	0	0	1	0	2	18	26	0
全体		392	5.4%	2.6%	7.1%	5.6%	15.8%	37.2%	18.6%	7.4%	0.3%
総従業員数 ※歯科技工所勤務者	1人	112	0.0%	0.0%	1.8%	3.6%	12.5%	52.7%	20.5%	8.9%	0.0%
	2人以上	163	8.6%	3.1%	10.4%	7.4%	15.3%	35.6%	16.6%	2.5%	0.6%
年齢	40歳未満	67	29.9%	11.9%	34.3%	22.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%
	40歳代	62	1.6%	1.6%	8.1%	9.7%	79.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50歳代	123	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	9.8%	88.6%	0.8%	0.0%	0.0%
	60歳代	91	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	38.5%	58.2%	3.3%	0.0%
	70歳以上	47	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	4.3%	38.3%	55.3%	0.0%